

### 第3回 日経 STOCK リーグ

## (株)北九州市 上場廃止阻止物語

ID: SL30716

明治学園高等学校

チームリーダー：2年 安田 俊樹

チームメンバー：2年 安達 憲祐

2年 遠藤 健

顧問教諭：下司 悟

500万ポートフォリオ銘柄一覧

### (株)北九州市 500万



市役所・各企業からの環境報告書

(内訳)

|      |        |      |
|------|--------|------|
| 1824 | 前田建設工業 | 40万  |
| 5332 | 東陶機器   | 100万 |
| 5401 | 新日本製鉄  | 100万 |
| 6506 | 安川電機   | 40万  |
| 7201 | 日産自動車  | 50万  |
| 7203 | トヨタ自動車 | 50万  |
| 7604 | 梅の花    | 10万  |
| 8260 | 井筒屋    | 10万  |
| 9031 | 西日本鉄道  | 50万  |
| 9474 | ゼンリン   | 10万  |
| 9508 | 九州電力   | 40万  |

# (株)北九州市 上場廃止阻止物語

## 序章

19XX 年、日本に新たな株式市場が生まれた。その名も「東証シティズ」(注：東証マザーズのパクリではない)。そこには、地方自治団体しか上場することが出来ない。上場に必要資本は人口 100 万人。ここ数年、博覧祭などの事業の失敗から株価の下落を受けていた「(株)北九州市」は人口 100 万人を切ろうとし、過去の四大工業地帯と呼ばれた栄光も薄れ、今まさに東証シティズから上場廃止となろうとしているのである。

しかし、その「(株)北九州市」の株価が最近少しずつ上昇しているのである。そのネタは、北九州市ルネッサンス構想第三次実施計画の北九州市四大プロジェクト「北九州学術研究都市」「響灘環黄海圏ハブポート構想」「新北九州空港」「東九州自動車道」だ。その他にも、「エコプロジェクト(Agenda21)」「駅前再開発」「経済特区の新設」などがある。そして、このルネッサンス構想が今年度末終わろうとしている。今まさに「(株)北九州市」は「再生」から「浮揚」へと変化を遂げようとしているのだ。

## 第一章 株式投資

私たちが生まれたのは今からおよそ 16 年前である。生まれて最初の 5 年間、その後の 11 年間とバブル崩壊の前後を生きてきたわけだ。そんなわけで、発展してゆく街、衰退してゆく街を記憶にとどめている最後の世代といっても間違いではないだろう。もう一度あの頃の栄光を取り戻そうと「(株)北九州市」はいろいろな取り組みを行っている。その頑張りにも私たちも投資したいと思った。決して大きく発展している東京や大阪に投資はしない。なぜなら株式投資は決してよく分からない企業に投資すべきではなく、また長期にわたる投資であると私たちは考えるからだ。実際に 100 万円を 2 ヶ月間動かしたが、私たちが予想したとおり最終的に 100 万円を下回った。時期が悪かったと言い訳もつけられる。この二ヶ月間は、波乱だらけの株式市場であった。日経 225 はバブル崩壊後最安値をつけ、失業率は過去最高水準、企業の疑惑も過去最高水準。銀行は政府の打ち出した案に反対したかと思うと株価は暴落。ここまで来ると企業に信頼があったものではない。だが、実は私たちの 100 万ポートフォリオはこんな時期にも関わらず、「井筒屋」「ゼンリン」を除き全面高なのだ。だが現在その二社の株価は上昇している。つまり短期間投資は暴騰しやすく暴落しやすい不安定投資であるのだ。話が変わるが、私(安田)の母は今から 20 年ほど前、あの山一證券で働いていた。それから 5 年ほど働き退職したと言う。その 10 年後、日本四大証券の一つであった山一證券は倒産した。あの日を私は今でも覚えている。だから四大

メガバンクと聞くと、どこが最初に倒産するかと考えるのは私だけではないと思う。となると、安易にメジャーな企業だからと言って投資するのは決してよくない。このポートフォリオの銘柄を選んだお前が言うな！と思うかもしれない。だが私たちがこれらの企業を選んだ最大の理由は企業と私たち消費者の距離の近さ、信頼の大きさを感じたからだ。

## 第二章 「(株)北九州市」の上場廃止阻止の動き ～環境対策～

1963(S38)年に「(株)北九州市」は発足した。それから二年後の1965年に国勢調査で人口100万人を超したことを確認し、「東証シティズ」へ上場したのだ。1980年の106万人をピークに、人口は減ってきた。1990年には世界初の宇宙テーマパーク「スペースワールド」、1995年には



JR 小倉駅

「門司港レトロ」と観光の街としても大きく栄えた。1989年には北九州空港、1998年には新「小倉駅」が開業し空と陸の玄関が整い、2005年には新北九州国際空港が海上空港として開港する予定だ。2001年には「響きあう 人・まち・技術」をテーマに新日鉄八幡製鉄所工場跡地の八幡東田地区で「北九州博覧祭」が催され、2002年には八幡東区にある北九州市立総合体育館で車椅子バスケットボール世界大会が催され、「(株)北九州市」の発展は目に入らないほど大きくなった。

その「(株)北九州市」が最も力を注いでいるのは環境対策だ。1972年に「グリーン北九州プラン」という市民・企業・行政が一体となった大規模な都市緑化に取り組み、その取り組みは経済協力開発機構(OECD)の環境白書で世界に紹介された。また、北九州市の公害克服と環境国際協力への取り組みは世界的にも評価を受け、1990年に国連環境計画(UNED)から「グローバル500」を、環境と開発に関する国連会議(UNCED/地球サミット)で



「国連地方自治団体表彰」授賞式

「国連地方自治団体表彰」を授賞した。そのような大成功から、現在は「Agenda21」というエコプロジェクトが進められている。エコタウンとして若松区の響<sup>ひびき</sup>灘<sup>なだ</sup>地区の整備が進められている。新日鉄と協力して行っている風力発電事業の高さ100mの風車も順に建設され、今年(2003年)の1月には完成するという。

### 第三章 「(株)北九州市」とその子会社

例えば私の身からは意外と遠い話だが、環境の悪いところとはどのようなところだろうか。それはおそらく都心部であると思う。都心部では、鉄筋コンクリートの高層ビルが立ち並び、自動車からは多量の排気ガスが出ている。そこで一つ考えたいのは、誰が汚し、誰が被害を被っているのかということだ。実は両方とも同一人物である。何とも滑稽な話だ。そのことにいち早く気づいたのが「(株)北九州市」である。ここが他とは違う、消費者(住民)との近さなのだ。そのようなこともあり、北九州市は「行政サービス度 全国ランキング」政令指定都市で1位、総合(全国675市区)で13位に輝いた。とりわけ「住宅・インフラ」分野では全国1位と「住みやすさ・暮らしやすさ」が証明されたと言っても良いだろう。それは、親会社である「(株)北九州市」が積極的に子会社と協力し合い、環境を良くしようという気持ちの結晶であった。現に私の生活の身の回りを見てみよう。私の家から5分も歩かないところに、福岡県立中央公園がある。そこには池があり、広場があり、先日車椅子バスケットボール世界大会のあったバリアフリーに優れた総合体育館もある。こんなに環境の整った公園はそうそう見たことがない。私たちの学校「明治学園」の学園前通りには北九州市都市景観賞(2001)を受賞した松並木も並びとても緑と近い。近くには旧松本邸(現西日本工業倶楽部)があり、それを取り囲む夜宮公園はとても菖蒲の美しい公園として知られている。松本氏は安川電機の創業者であり、私たちの「明治学園」の初代理事長でもあり、学校にゆかりの深い方である。こんなことから、自分は都心部にいながらも緑の豊かなところに住んでいると思う。

ところで、「(株)北九州市」にはたくさん子会社がある。市全体の環境対策には行政の旗振りだけではなく、民間企業の個別の努力が欠かせないと考えた。そこで北九州市周辺で経済活動をしている民間企業を子会社として私たちは次の企業を選んだ。いずれも「近さを感じた」という視点で選んだ。「TOTO」「新日鉄」「日産自動車」「トヨタ自動車」「西日本鉄道」「前田建設工業」「安川電機」「九州電力」「井筒屋」「ゼンリン」「梅の花」の11社のことだ。

「TOTO」は北九州で生まれ育った、言わずと知れた企業である。私たちメンバーの家では風呂・トイレ・台所の全てでTOTOの製品を利用している。TOTOは、自分たちの会社は環境を汚す原因を作り出している会社であると自覚し、現在環境に優しい製品作りに力を注いでいる。水を汚す原因の大半は、家庭からの生活排水だそうです。飲料用水はもちろん、魚たちまでが被害を被っています。そこで、TOTOは二酸化炭素の発生を抑える省エネ技術、水の使用量を抑える節水技術、長く使うためのリサイクルロングライフ技術、洗剤の使用量を削減するための防汚技術などを使った商品を生み出しています。**近さを感じた(1)** 他にも、このTOTOの環境報告書は100%再生紙、しかも大豆油のインキで印刷してあるのです。私たちが驚いたのはこの点です。これらのTOTOの技術、この報告書、

普通(環境を考慮していないやり方)よりも、コストがすごくかかるのです。お金と環境、どちらか一方と言われ TOTO は環境を選んだのです。アメリカとは大違いです。京都会議でアメリカは経済と環境といわれ、経済を選んだのです。議定書に調印しなかったのです。彼らはまだ自分たちに被害が及ぶことを分かっていないのです。

「新日鉄」は今から 100 年前、八幡製鉄所として生まれ、最初の 50 年間は富国強兵のため鉄を作り、環境への影響は顧みられなかった。その後もしばらく環境を汚しつづけ、北九州市民もそれには頭を抱えていました。「七色の空」「死の海 洞海湾」としてその害は全国に知られていました。しかし「七色の空」は人体に害の大きな煙煤であるにも関わらず、当時の市民は産業繁栄の象徴として自慢していたそうです。空から降る煙煤は桜島から降るチリのようなだったとも父に聞きました。ここで思い出していただきたいのは、四大公害病の一つ「水俣病」だ。水俣病とは、熊本県水俣地方で工場廃液による有機水銀に汚染した魚介類を食したことにより集団的に発生した病気だ。それは、有機水銀を含んだ廃液を流すのを止めれば広まること



煙におおわれた空(1960 年代)



美しくなった空(現在)

のなかった病気を、その企業は行政の指示に従わず流し続けたのだ。そして、環境は崩れた。そこで、新日鉄から発生する害を親会社の「(株)北九州市」は見逃していませんでした。自分たちの会社の株主(市民)が被害を被っているのです。そこで「(株)北九州市」は住民を移動させたり、零細な鉄工所群を郊外に集団移転させたり、企業と連携して環境を良くするプロジェクトを実行した結果、第二章でも述べた「グローバル 500」「国連地方自治団体表彰」を授賞した。今なお新日鉄は環境を汚すことなく鉄を作り続けている。近さを感じた(2) 鉄を作るうえで燃料・電力・工場用水を大量に使うのは当然のことだ。そこで新日鉄は使用した資源を捨てはしなかった。鉄鋼製造プロセスから発生する副生ガスをエネルギーとしてほぼ 100%有効に活用しながら、さらには排熱も回収することで、高いエネルギー効率で鉄鋼製品を製造している。そのエネルギーは自分たちの家にも届いているのだ。

北九州近辺に工場のある「日産自動車」と「トヨタ自動車」は共に環境にやさしい車を率先して開発している企業である。ほぼ親会社「(株)北九州市」との関わりはない。というのも環境汚染問題は当然ながら北九州市だけの問題ではない。日本全国、世界の問題である。私たちが環境を汚すのはいろいろな要因があると思う。例えば衣食住に欠かせない洗剤、私たちは家庭内の環境(清潔さ)を保つために使うのだ。だから環境を汚していると気づきにくいのだ。だが、自動車は誰もが気づく環境破壊である。しかし、なぜ自動車が環境を汚すかと言えば、石油を使い、二酸化炭素をはじめとした排気ガスを出すからだ。なら

ば石油を使わなければいい。ということで、去年(2002 年)の 12 月にはトヨタとホンダが官庁に燃料電池自動車を出展した。買うには高すぎて、とても身近には感じられない。**近さを感じた(3)** しかし、現在両社を含め多くの自動車会社はハイブリットカーなどと言った、環境に優しい車を開発している。私が免許を取ったときは、ぜひ一台目にハイブリットカーを選びたい。

「西日本鉄道(以下「西鉄」)」は私たちの街を走るバス会社である。近年では、100 円バスや1000 円高速バスなど出てきて、私たち利用者にはとてもウレシイ企業である。しかし、バスは軽油を利用している。しかも、この「西鉄」は全国でもバス保有台数 No.1 の企業である。とても環境を汚している。先日電気で動くバスが公道で実験されたが、あのバスはほとんど環境を汚さないと聞いた。あのバスをこの「西鉄」が採用したら、どれだけ環境が良くなるだろうか。その願いをこめて、この企業に投資した。しかし、そのバスが採用されるのは遠い先の話である。**近さを感じた(4)** 現在「西鉄」はアイドリングストップを実施したり、回数券で再生紙を利用したりしている。

「前田建設工業」は数ある建設会社の中でも特に環境保全に努めている。中心部に流れる紫川周辺で河川の整備の取り組みとして「RIVER WALK 北九州」(今年(2003 年)秋オープン)にも関わっている。



RIVER WALK 北九州 建設風景

「安川電機」は産業ロボットの世界的メーカーであり、生産の最前線で省力化に貢献している。

「九州電力」は私たちに電力を供給してくれる会社です。私たちにはたくさんのライフラインがある。それらは、この電気や水、ガスなどとさまざまある。近年新たに建つマンションでは、安全性・環境保全性をふまえた電気を、台所や風呂などで使うところが多い。

「井筒屋」は北九州市内に残る最後の百貨店である。その売り上げでは九州最大の規模の百貨店でもある。**近さを感じた(5)** 店内のトイレでは私たちの学校でも使用している「北九州紙 エコPPER(リサイクルトイレットペーパー)」を使用している。このトイレットペーパーは「もったいない総研」という(財)北九州活性化協議会が設立したフォーラムが製品化したものだ。このト



活動風景と「北九州紙 エコPPER」

イレットペーパー1 パックにつき、1 円は「子どもの環境教育」の一助になっている。他にも井筒屋では環境保全のため、包装紙を簡易化したりもしている。

「ゼンリン」はたいていの人が利用している住宅地図の会社である。電子地図や自動車のカーナビ用の地図で需要を伸ばし、中国やアメリカでも事業を拡大しているそうだ。最近、都市を生産の場から生活の場と考えるようになり、人間が都市に「都市生活のアメニティ(快適さ)」を求める考えが強くなった。その点、道路の入り混じる都心部では、カーナビが大いに役立つ。それと同時に、人々の行動範囲のムダをなくし、利便性を高めた。メディアも紙から CD-ROM や DVD-ROM、ハードディスクなどを利用し、資源をムダにしないようにしている。

「梅の花」は女性の神様の代名詞。健康によく低カロリー、しかも安いと 3 拍子そろった豆腐専門の料理店です。最近では中華料理にも手を伸ばしているそうだ。つい最近、私が母と梅の花に食事に行った。近さを感じた(6) そのとき、ふとテーブルにあるランチョンマットを見てみるとそこにはこのように書かれていた。「<こんなところから……進めてゆきたい環境保護> 梅の花の豆腐工場から出るおからを材料にして、紙として甦らせました。その紙を使って、この箸袋やランチョンマット、紙鍋、紙袋を造りました。梅の花が考える小さな地球環境保護なのです。」エコタウンにもおからから紙を作る工場がある。

ここまで子会社について知ってもらったが、どうして企業は環境対策をするのだろうか。それは、上にも書いてあるとおり、会社の信頼を高めることにつながるからだと思う。「(株)北九州市」の社長(末吉市長)は次のように述べる。「市民との癒着はいけませんが、密着は必要だ」と。最終的に企業が環境対策をすると何が出来るかと言でまとめると、消費者と密着できるということだ。密着できるとそこに企業への信頼が生まれ、おのずから利益が生まれるのだ。環境対策は今日始めて明日結果の出るものではない。むしろ結果が出るのは 5 年後、いや 10 年後ではないだろうか。その点、環境対策に着眼した投資というのは私たちの考える「長期投資」に向いているのだと考えた。

## 終章

環境のために私にも出来ることはいろいろあると思う。  
ゴミの分別やリサイクルも大切だけど、  
たとえば、環境のために努力している企業に投資してみる。  
もっと大きなチカラで地球を変えてくれるかもしれない。  
株式投資は自分のためだけでなく、社会に貢献する企業を応援することにもなるのです。

この言葉は、野村證券のテレビコマーシャルの言葉です。この言葉が私たちをストックリーグへ導いたと言っても過言ではないでしょう。環境のために私はバスを使わず自転車

で学校に通い、環境のためにエアコンの温度を調節し、紙も極力再生紙を利用しています。しかし、私一人がしたところで全く環境は良くなりません。だからと言って、私一人がしなくてもいいということでもありません。そこで、TOTO のようにつくった商品を通じて地球環境を守ることに力を入れたらどうでしょう。TOTO の技術を駆使したタイルや便器を使えば、水を流しただけできれいになり、掃除も楽になる。洗剤の量が減れば、河や海も汚れにくい。しかも、節水型のトイレを使えば、水を流す量がぐっと減らせます。

個人だけが頑張るのではなく、企業も頑張る。

企業が頑張れば個人も頑張れる。

そうすれば、環境をキレイにするスピードは上がるのではないだろうか。ましてや、TOTO は日本人の多くが利用している企業だ。ということは、全国民が参加して環境対策をするということになるのではないだろうか。

例えば「(株)北九州市」に投資してみる。いろいろな企業と手を結び、もっと大きなチカラで環境をよくしてくれるかもしれない。現に「(株)北九州市」は中国の「(株)大連市」などの姉妹都市でも環境をよりよくする活動をしている。現代は環境破壊の影響が国境を越えて波及することから地球規模で環境対策を考えなければならない時代である。最近でも黄砂の飛来が話題になった。「(株)北九州市」の活動は国連の目的の一つである「国際協力の促進」にも貢献するのである。

さて、わざわざ「(株)北九州市」を設立して話を進めてきた理由は二つある。まず、市内にはエコタウンなど世界規模の環境浄化に協力する企業が多数ある。そんな小さな企業に投資をするためでもあった。また、企業の環境活動は行政の施策だけでは効果が小さい。企業・行政・市民が一体で行ってこそ、その効果は大きい。企業単体で環境活動を行っている企業は日本中にたくさんある。だからこそ、私たちは行政と手を取り合っている自分たちの街「北九州市」に投資をしようと考えた。

今回ストックリーグを通して、株式は利益を得るために投資するのではなく、企業の経営を、企業の活動をお金で助けるということが株式の本意であると学んだ。そんな投資をする株主が増えればもっと企業も夢を持つことができるのではないだろうか。

私たちはまだまだそんな投資家の増えている「(株)北九州市」の株主でありたい。

こうして、長い間の環境への取り組みが近い将来に大きな成果を生むと期待され、「(株)北九州市」への投資家は徐々に増え、東証シティズからの上場廃止を間逃れ、その他の企業や株主と共に経営の再建を目指し、また未来へ一步一步と確実に進んでいくのであった。

めでたしめでたし



門司港レトロ